

マテリアリティー一覧表

事業に関わるマテリアリティー

	2025年度までのKPI目標値	2024年度実績	① 創出する経済的価値 ② 創出する社会的価値
革新的な医薬品の創出	① 3ADC:8適応上市(第5期中期経営計画期間中に おける新規適応症として) ② 3ADC に次ぐ成長ドライバーとなる製品が、 後期開発段階以上に複数ある ③ 開発段階にポストDXd ADCとなりうるモダリティがある ④ 優先審査制度への指定数^{※1}(実績累計件数で集計)	① エンハーツ® ●HER2陽性複数の固形がん承認(米:2024年4月) ●化学療法未治療のHER2低発現乳がん治療承認(米:2025年1月、欧:2025年3月) ●HER2陽性胃がん二次治療(Ph3)TLR取得(2025年2月) ダトロウェイ® ●EGFR遺伝子変異を有する前治療歴のある非小細胞肺癌ん申請、非小細胞肺癌ん二次/三次治療申請自主的取り下げ(米:2024年11月) ●ホルモン受容体陽性・HER2陰性乳がん承認(日:2024年12月、米:2025年1月) HER3-DXd ●EGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺癌ん三次治療 CRL(Complete Response Letter)受領(米:2024年6月) ●EGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺癌ん二次治療試験の結果公表(2024年9月) ② エザルミア® 再発または難治性の末梢性T細胞リンパ腫承認(日:2024年6月) ●DS-7300小細胞肺癌ん二次治療(Ph3)、投与開始(2024年7月) ●DS-6000卵巣がん(Ph2/3)、最初の患者さんへの投与を開始(2024年4月) ●DS-3939複数の固形がん(Ph1/2) 試験実施中 ③ DS-9606 Ph1試験実施中 ●DS-2325 Ph1b/2試験実施中 ④ 2024年度12件(2023年度からの累計25件)	① 将来の売上収益・利益につながる研究開発パイプラインの 拡充、知的財産の獲得 ② 世界中の人々の健康で豊かな 生活への貢献
高品質な医薬品の 安定供給	ADC生産体制構築や高品質な医薬品の患者さんへの安定的供給に 向けた自社設備投資およびCMO投資:最大3,000億円	●需要予測に対応し、供給能力を拡大 (2024年度 約2,260億円、2021年度から累計 約5,220億円の投資を意思決定)^{※2} ●安定在庫を確保	
高品質な医療情報の提供	医療関係者をはじめとするステークホルダーからの、当社の情報提供 姿勢に対する評価の向上	ジャパンビジネスユニット MR:医師総合評価1位、製品情報センター:薬剤師評価1位 ^{※3}	① 売上収益・利益の拡大、企業 価値毀損リスクの低減/回避 ② 世界中の人々の健康で豊かな 生活への貢献
医療アクセスの拡大	① パートナーとの協働等を通じた、がん製品の上市国・地域数の拡大 ② 各国当局、他社等との協働による新規リスクへの当社の取り組みに よる貢献として、アストラゼネカ社の新型コロナウイルスワクチン (AZD-1222)の計画通りの供給達成、DS-5670の計画通りの開発進捗	① エンハーツ上市国・地域:69カ国・地域、2024年度新規展開17カ国・地域、 提供患者数 約94,650人^{※4} ② ダイチロナ® オミクロン株JN.1対応のmRNAワクチンとして日本で発売(2024年9月)	

※1 2023年度に新規設定
※2 2023年までの累計投資金額を再計算
※3 MR(医薬情報担当者):インテージヘルスケア、調査月:2024年8月、製品情報センター:トランスコスモス社・日本総合研究所、調査月:2024年11月
※4 「総販売量」から「患者1人が1年間必要とする使用量」を除いて推計

事業基盤に関わるマテリアリティ

	2025年度までのKPI目標値	2024年度実績	① 創出する経済的価値 ② 創出する社会的価値
環境経営の推進	① CO ₂ 排出量 (Scope1+Scope2) ※5 2015年度比42%減 ② CO ₂ 排出量 (Scope3、カテゴリ1) ※5 2020年度比売上高原単位15%減、1.5°C水準目標を70%以上 (調達額) のビジネスパートナーが設定 ※1 ③ 再生可能電力利用率60%以上 ④ 廃プラスチックリサイクル率70%以上を維持 ⑤ 有害廃棄物排出量2020年度比10%減	① 2015年度比42.7%減(116,312t-CO ₂ ※6) ② 2020年度比2.4%減(188.2t-CO ₂ /億円) 1.5°C水準の目標を設定しているビジネスパートナー:43.1% ③ 79.9% ※6 ④ 77.8% ※6 ⑤ 2020年度比43.9%減(3,148t ※6)	① 環境経営に対する取り組み評価による企業価値の向上 (企業価値毀損リスクの低減/回避) ② 脱炭素社会の早期実現、海洋プラスチック問題改善、環境汚染防止等による持続可能な生活基盤構築への貢献
コンプライアンス経営の推進	① 重大なコンプライアンス違反 ※7 0件 ② 留意すべきコード違反 ※8 0件 ③ 企業風土に関する従業員調査スコアの向上 ④ 各会社でコンプライアンス・モニタリング、プロモーション活動・モニタリングの継続実施 ⑤ サステナブル調査調達先カバー率 (全調達額に占める割合) 75% ⑥ サステナブル調達推進に向けた社内外での教育・研修強化および実績の開示 ⑦ グループ内人権リスクアセスメントの結果、ILO中核的労働基準 ※9 の抵触事例なし ⑧ ビジネスパートナーにおけるILO中核的労働基準に関するリスク軽減の取り組み結果の実績開示	① 0件 ② 3件 ③ 肯定的回答率93% (前回スコアより7pt向上) ④ 各社にてモニタリングを実施 ⑤ 国内外で第3回サステナブル調査を実施中 ⑥ 健康経営をテーマに第2回社外研修を約20社 (約100名) に対し実施 ⑦ 第2回社内リスクアセスメントを実施し、結果を分析 ⑧ 第3回サステナブル調査を実施中	① 当社ブランドへの信頼性向上による企業価値の向上 (企業価値毀損リスク) ② 製薬業界全体の信頼の維持・向上、サステナブル調達を通じた社会全体のコンプライアンス向上
企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス	① 改訂コーポレートガバナンス・コードの各原則の100%遵守 ② 取締役会評価の実施と評価結果に基づく改善施策への取り組み (定期的に2025年度までに第三者機関による評価を2回実施) ③ 監査機能の実効性の継続的な評価と向上 ④ ステークホルダーの理解向上に資する各種媒体を通じた情報開示の充実・透明性向上	① 改訂コーポレートガバナンス・コードを100%遵守 ② ● 取締役会付議基準に基づき、取締役会審議事項・報告事項の最適化を図り、取締役会を運営 ● 2023年度取締役会評価で抽出された課題に対し、重点施策を実施 ● 2024年度取締役会評価を第三者評価で実施し、2025年度の重点施策、取締役会評価に関する開示内容案について審議を実施 ③ ● 2023年度実効性評価で抽出された課題に対する改善策を実施 ● 2024年度監査役会実効性評価を実施し、2025年度取り組み課題を抽出 ④ ● 各種媒体におけるコーポレートガバナンスに関する情報開示を充実 ● 2024年12月にサステナビリティに関する意見交換会を開催し、指名委員会委員長、報酬委員会委員長が登壇	① 会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上 ② 本業を通じて提供できる価値の総体、株主・投資家を中心としたステークホルダーの期待に応える透明性の高い経営の実現
競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成	① 女性上級幹部社員比率 ※10 30% ② 企業風土・職場環境に関するエンゲージメントサーベイ肯定的回答率80%以上もしくは2021年度比10%向上 ③ 育成・成長機会に関するエンゲージメントサーベイを通じた肯定的回答率80%以上もしくは2021年度比10%向上 ④ 社員一人あたりの教育投資額の実績値の公表	① 24.2% (前年比+5.5pt) ② 肯定的回答率76% (前年比 - 3pt) ③ 肯定的回答率77% (前年比+1pt) ④ 207,430円 (前年比+40,524円)	① 事業活動を支える人材力強化による企業価値の向上 ② 人材の多様性、人権尊重、人材育成

※5 Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼)。Scope2:他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出。Scope3:左記以外のその他間接排出量全てで、カテゴリ1は、原材料・部品・容器などが製造されるまでの活動に伴う排出

※6 第三者保証対象

※7 関連法規制において第一三共グループとして対外的な開示が必要とされる、国内外グループ会社で発生したコンプライアンス違反

※8 規制当局および業界団体による医療関連の指摘があり、第一三共グループの信用を著しく低下させる可能性のある事案

※9 結社の自由・団体交渉権の承認、強制労働の禁止、児童労働の禁止、差別の撤廃、安全で健康的な労働環境

※10 部所長あるいはそれと同等以上の役職にある女性社員。2020年度よりグループ会社における上級幹部社員の定義を変更